

クリマロ、岐阜大学 生物多様性研究者との淡水魚シリーズを展開

川の日に24種のクッキーアートを公開、フィールドワークも開催



生物多様性をテーマに、1,300種以上の生きものをクッキーアートで表現してきたクリマロコレクション(本社：三重県桑名市、代表：栗田こずえ、以下クリマロ)は、「川の日」(7月7日)に向けて、岐阜大学 地域科学部 教授・向井貴彦氏と連携し、日本の淡水魚(東海地方編)をモチーフにしたクッキーアートを全24種制作しました。

8月18日には夏休み特別企画として、向井教授とともに岐阜県の河川にてフィールドワークを行う予定です。

背景 | 生物多様性を理解するための基礎研究

生物多様性保全や環境政策を考える上で、前提となるのが「どこに、どのような生きものが生息しているのか」を知ることです。

分類学や生物地理学といった基礎研究では、生きものの分布や地域ごとの違いを明らかにすることで、生物多様性の成り立ちや進化の過程を読み解いています。変わりゆく環境の中、現在の自然や生きものの姿を記録することは、未来の変化を知るための「今しか取れないデータ」を残すことでもあります。

向井教授の研究 | 淡水魚から読み解く生物多様性

向井教授の研究室では、主に淡水魚やオオサンショウウオなどを対象に、生物多様性を知るための「生物地理学」と、生物多様性を守るための「保全生物学」を研究しています。

生きものの分布や地域ごとの違いを調べるなかで、同じ種類に見える生きものであっても、異なる特徴を持つことがあります。それらは、生きものが環境に適應しながら進化してきた過程を読み解く手がかりとなります。向井教授は、その違いから「なぜ生きものは多様なのか」「なぜ地域によって異なるのか」といった、生物多様性の根源に向き合っています。

なぜ淡水魚なのか | その風景ごと好きだった

向井教授が淡水魚に惹かれた原点には、幼少期の魚とりの記憶があります。春先の小川の風景、真夏の川の空気や匂い、水の冷たさ。淡水魚の魅力は、魚が暮らす自然や、その場所で過ごした体験や思い出と切り離せません。今回のコラボレーションでも、魚だけでなく、その背景にある風景や自然への関心を広げることを目指しています。

日本の淡水魚シリーズ(東海地方編)について

クリマロと向井教授は、2024年のアクア・トぎふ特別企画展にあわせたアマゾン生物シリーズや、2025年の体験型プログラム「いきものラボ」での特別授業などを通じて連携を重ねてきました。



今回も向井教授へのヒアリングを重ねながら、淡水魚の特徴や魅力をクッキーアートとして表現しました。見た目が似ている種も多い淡水魚だからこそ、その違いや個性を捉え、それぞれの魅力が伝わる表現を目指しました。



種類: ヤリタナゴ、アブラボテ、イタセンパラ、カワバタモロコ、オイカワ(オス)、オイカワ(メス)、カワムツ、ヌマムツ、タカハヤ、アブラハヤ、ウグイ、ウシモツゴ、アジメドジョウ、ネコギギ、タニガワナマズ、アユ、アマゴ、ヤマメ、ハリヨ、トウカイヨシノボリ、ミナミスナヤツメ、トウカイコガタドジョウ、アカザ、カジカ(全24種)

価格: 600円(税込) ~ | 期間: 7月7日(火) ~ | 場所: 店頭・公式HP | 監修: 岐阜大学地域科学部 教授・向井貴彦氏

【ブラッシュアップやこだわり(一部抜粋)】

全体: 背腹・尻鰭・腹鰭・胸鰭・あぶら鰭の位置関係、鰭や顔の大きさ、体のシルエットやポーズ、筋彫の有無 | ヤリタナゴ: 鮮やかで鮮やかな色 | カワバタモロコ: 明るい黄色線 | オイカワ: 雄雌の色と模様の違い | ウシモツゴ: 最高潮の婚姻色である漆黑 | ネコギギ: 夜の川で見る色 | アユ: シルエットや尾鰭の付け根の幅、黄斑 | スナヤツメ: 成体ではなく幼生 | カジカ: 鰓蓋のトゲ など



向井教授とのフィールドツアー

8月18日(火)、岐阜県の河川にて、向井教授とのフィールドワークツアーを実施。研究者ならではの視点から、「なぜこの魚はここにいるのか」「地域によって何が違うのか」「どのような環境で暮らしているのか」などを解説。クッキーアートとなった生きものの実物や、その背景にある自然環境について学びながら、生物多様性の面白さに触れる機会を提供します。※雨天時の場合は8月25日へ。詳細は近日公開予定

今後の展開

クリマロは2026年7月に活動10周年を迎えます。7月7日には10周年記念缶を発売するほか、7月18日には沖縄・八重山の固有種をテーマにした新作を展開。同日には沖縄県立石垣島バナナ公園内に「いきものパーラー」を開店予定です。

今後も、食・ワークショップ・フィールド体験を連動させながら、「もっと知りたい」が生息地へ足を運ぶ行動につながる循環づくりを進めていきます。

岐阜大学 向井貴彦教授

滋賀県出身。岐阜大学 地域科学部 地域政策学科(自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻)

株式会社クリマロ

生息地での調査や研究者へのヒアリングを重ね、クッキーアートで表現。大学・研究機関との共同プロジェクト15件以上、動物園・水族館との連携8件以上を実施し、研究と社会をつなぐサイエンスコミュニケーションに取り組んでいる。

住所: 三重県桑名市北鍋屋町84-1 | 代表者: 栗田こずえ | 設立: 2016年 | 電話: 0594-41-5837 | HP: <http://cookie-kurimaro.com>

本件に関するお問い合わせ: 窓口: 福田(PR担当) TEL: 080-5984-7800 mail: support@on-co.co